

5 時間耐久リレーマラソン男子マッチングの部の反省

ちばりく中距離ブロック 4 年 熱田育

12 月 15 日、日産スタジアム 5 時間耐久リレーマラソンが行われた。私はこの大会にちばりくとしてではなく個人で男子マッチングの部に出場した。マッチングの部とはその部に申し込んだ男女たちが現地で初めまして～と自らでチームを作りそのチームでリレーマラソンに臨むという合コンの変化球のようなものである。私がこの部に 7000 円もはたいて出場した理由は単純である。彼女が欲しいからだ。世にはびこるカップルたちと同じく、私もキャッキョウフフとイチャイチャしてみたかったのである。

大会が行われる前日まで、私は緊張と期待に満ち溢れていた。初対面の女性と話すというのは想像するだけで緊張するが、頑張ればもしかすると意気投合した方と二人でご飯にいたり、映画を見に行ったりと大会が終わったあとも交流がつづいて、そしてカップルへ…ということがあるかもしれない。最近調子もいいし、走りがかっこいいところも見られるかもしれない。これは本当にワンチャンある。がんばらねばと。

そして大会当日、9 時からマッチングの部フリースペースというところでチーム作りが行われるということで意を決してそのスペースへと向かった。そしてスペースに集まった人たちをざっとみて、私の前日までの期待は崩れ去った。男性も女性も若い人がいねえ！一番若くても 20 台後半ぐらいかな～という人しかいない。だいたいアラウンド 40 か 50 やんけ！それでも一人 20 台後半～30 前半かなというタイプなお姉さんがいたので頑張って声をかけてチームが組めた！と思ったら司会の人にちょっとそのグループは女性の数が多いですね、ちょっとこちらのチームに移動してもらってもいいですか？と移動させられてしまった。結果として出来上がったチームは私含め男子 4 人、女子三人のチーム。年齢は男子 38 歳が一人、正確な年齢はわからなかったが 40 代が二人、女性はみなアラウンド 30 であった。男子の年齢は高すぎる。女性からしても 22 歳という若造はおよびでないだろう。そうこのマッチングの部、合コンというには参加者の平均年齢が高すぎて実質婚活のようになっていた。私はいささか若すぎたのである。ただ私は若いのでたくさん走ることが確定した。マッチングも出来ずただひたすら走るのかと 9 時半の時点ではわたしのテンションはもう地に落ちていた。そして 11 時、リレーマラソンスタート。長い 5 時間がはじまった。案の定私はたくさん走った。具体的には一周 1500m のコースを 8 周した。12 km もはしった。結果としてマッチングの部でチーム 3 位となることができた。まあ 5 チームしかないんだけど。それでも 3 位になれたということでなんだかいい雰囲気ですべてを終らせることができた。私のおかげだな。いい仕事したわ。いい練習になったぜ！

リレーがおわったあと、チームのライングループがつくられた。つくられた初日のみ、男性陣の発言にたいして女性陣が反応してくれていたものの今では女性陣は一言も発しない、発言に反応しない。ただぼつぼつと男性が発言しそれに別の男性が答えるのみである。ちなみにわたしは初日にありがとうございますというスタンプをしてあとはもうなに

もしていない。今でもときどきそのライングループの通知が来るがそれをみて既読をつけるたびにむなしい気持ちになる。もう女性陣はなにも言葉を発しないだろう？つまりはそういうことだ。私たちはだめだったということさ。もういさぎよくあきらめようぜと。それでもぽつぽつとラインの通知はきつづけるのである。

マッチングの部に参加したが、期待したことはなにも起こらなかった。それでもこの大会に7000円をはらって参加したことは意味のあることだったと思う。世の中そんなに甘くないということを知れた。いろんな現実を知れた。私は同じチームとなったアラウンド40の男性たちをみて、哀れだとおもった。しかしわたしもこのままいけばそのあわれだと思った男になるのである。それは避けたい。そうならないために努力しなければならない。具体的に何をどうすれば、努力すればいいのかわからないが、このままいけば私が直面するであろう現実をこの目で見てしまったのである。若さは力である。若いうちががんばらねば、行動しなければいけない。そうおもった私はとりあえず恋愛指南書のようなものを買って勉強しようとamazonでタイトルに惹かれた「すべてはモテるためである」という本を買ってページを開いてみた。そうしたら開幕早々その本の冒頭には

こんな本読んでる時点でキモチワルイしもてないと書いてあった。なるほどね。

2019年度の反省

4年 桑原 陸

はじめに

反省文の締め切りが間もなくとなっている中、真面目に反省文を書き始めようとしています。現在12月25日23時55分です。さて何時に書き終わるのか。みなさん是非予想してみてください。答えは最後に載せておくと思います。ちなみに昨年は約4時間かかりました。

1, 今シーズンの目標を振り返って

まず今シーズンの目標としていたものは

- ① 全カレ出場
- ② 関東理工系優勝

の二つでした。

結果から言えば、①は達成ならず、②は無事達成しました。

春先は就活で忙しくなるので、タイムを狙うなら夏場だとはシーズンインの時から考えていました。6月に就活が終わり、そこから記録会等に向けて調整していきましたが中々結果が出ず焦りばかりが募る日々を過ごしていました。そうこうしているうちに、ラストチャンスとなる茨大戦の日が来ました。当日は、本当に自分が実在しているのか疑わざるを得ないほどふわふわした感じで、補助員をしているときも気が気ではなかったです。

レースに関してはアップされている動画を見てください。全カレ標準突破に向けて努力してきたつもりでしたが、それはあくまでも「つもり」でしかなかったみたいです。なんか書いていると思いついて辛くなってくるからこの話はおしまい！

理工系の方は楽しく走れました。さすがワイ。過去3年分のリベンジが出来ました。アベック優勝も出来たし満足です。レースに関してはアップされている動画を見てください。

理工系の一番のお楽しみはなんと言っても打ち上げですね。今年もしゃぶしゃぶ食べ放題でした。序盤はうちの卓だけ食材が出てこず、帳尻を合わせようとハイペースで頬張っていたため、終盤は地獄でした。ちゅうでんさんと浅利さんには先輩としての威厳を魅せてほしかったところではあります。

このことから「800mも食べ放題もペース配分が大事」という教訓を学びましたね。

2, 日常

今年は様々な出来事に「学生最後の」という枕詞が付くようになりました。かといって過去3年間と何が違うのと問われても、答えを持ち合わせていません。平々凡々な1年でした。

ただ、4年生という立場で部活に参加するのも、下級生の成長を見守る立場みたいな感じで新鮮でした。特に27大戦とかはもう涙無しには観られませんでした。

こうやって振り返るとプライベートに関してはあまりにも薄い1年でしたね。1つだけネタは無くも無いですが、これは親しい友達にのみ公開いたします。

3, お好み焼きにごはん？

さて、ネタが尽きてきました。現在YouTubeの里崎チャンネルを観ながら反省文を書いているのですが、12月24日公開の動画で「お好み焼きとご飯は合うのか」という話題が取り上げられていました。僕はお好み焼きとご飯を一緒に食べる派です。お好み焼きをおかずとして捉えている感じですね。実家にいるときからそうでしたので、まあそうなりますよね。みなさんはどうでしょうか？ぜひ意見を聞かせてください。

この類いの話だと、「シチューとご飯は？」というのもありますね。僕はシチューとご飯を一緒に食べる派です。かけるかかけないかはその日によります。こちらの方の意見も是非聞かせてください。待っています。

4, 終わりに

早いもので反省文も終わりを迎えようとしています。例年通り内容の薄い反省文が完成しようとしています。どうやって締めればいいのかなどと思い、過去の反省文を確認しましたが大したことを書いてありませんでした。全く成長していませんね。

今後は3月に春期OPに出場してそれからは未定です。社会人になってからも続けたいと考えていますが、明日は明日の風が吹きますからね。機会があればちばりくの練習にも参加させていただきたいと思います。そのときは快く迎え入れてくれればとても喜びます。

これからの、中距離ブロック、そしてちばりくの発展・成長を願って終わりにしたいと思います。

書き終わりは12月26日1時15分でした！

2019年 反省文

4年 小竹 涼介

1月	5km	17'20	27 大学駅伝	意外と走れた
3月	1500m	4'28"27 PB	順大記録会	これは満足
	100m	12"22(-1.9)	春季OP	寒かった！
	400m	52"67 UB	〃	1年生ぶりのUB
4月	800m	2'05"91 UB	千葉県記録会	風邪ひいた
	200m	24"47	〃	ふらふら
8月	200m	24"45(-5.0)	順大記録会	向かい風エ…
	400m	53"38	茨大戦(ラップ)	走ると思ってなかった
	200m	24"33(-1.2) UB	理工系	23"欲しかった
9月	400m	53"36	27 大学	就活終わり！
11月	10000m	36'20"92 PB	日体長	爆死ンゴ
12月	3000m	DNS	松戸	脚痛い

おつかれさまです。今年も反省文(感想文)を書いていくわけですが、まず今年の試合結果を載せておきたいと思います。ズラーっと並べてみると結構ありました。

今年の目標は障害以外のトラック種目すべてに出場することでした。一見達成できてそうですが、5000mだけ(3000mも)出場することができませんでした。残念！
駅伝で5km走ったからそれで換算していいかな。

各試合の反省はHPの方でしているのでさらっといいますが、個別にみとみると走っただけになってしまった試合もたくさんあります。100mや800m,200mはあまり満足できる結果とはなりません。短距離のスパイクを去年の27大戦で紛失してしまったのでそれも反省点…？今年もう出られる機会がなかったので卒業までに機会があれば出たいと思います。

今年の冬はしっかり練習を積めた分、調子は良かったんですが調整で失敗したケースが多かったです。調整はずっと下手くそで、なかなか難しいですね。あとは、種目が様々だったので各種目に特化した練習をする期間が短かったというのもあげられます。

最後の年だったので、いろいろな種目に出られたことは楽しかったです。陸上競技を続けてきて、いろいろな種目をやってみて、種目ごとの楽しさを感じたり、自分の向き不向きを感じたり、練習で意識することメニューの立て方を工夫したり、ある種目の練習が違う種目の

向上につながったり、そういう面白さを感じました。特に大学では。対校戦で決勝に進んで得点をたくさん取って活躍するような選手ではなかったけれど、目標は楽しく続けることだったし、その結果強くなれたらそれは理想だけど今になって振り返ってみて辛かった時期は多かったし、つまらないこともあったけど楽しいと思えたことはあるので大学で陸上を続けたことは土で考えたらプラスだったなって思います。

来年もまだ 5000m、ハーフマラソン、フルマラソンと何かに出場する予定なので、ぼちぼち練習も続けていきます。卒業もできるように頑張ります。

あと少しの間ですが来年もよろしくお願いします！

反省文

4年 藤原 睦

こんにちは、藤原です。4年ということで、遂に最後の反省文となりました。なので、1年間というよりは、これまでを振り返りながら反省というか思い出というか自分の考えというか、たらたら書いていこうかなと思います。本当にたらたら書いたのでかなり拙い文章です、覚悟して下さい。

千葉大学に入学することが決まった時期は、部活かサークル何かしら入ろうと考えていて、陸上部以外にも興味があるサークルはありました。なんなら受験勉強している最中は、陸上部ではなく、某部活に興味があり、受かったらそこ入部しよ〜と考えていました。しかし、高校で納得いく結果が出せなかったことや、高校時代尊敬していた先輩に「大学入っても続ける」と言われたことを思い出して結局陸上部に入部を決めました。というのは表向きな理由で、当時の自分を振り返ると、新しいことに挑戦する勇気がなかっただけだと思いますきっと。

入部当初は練習できることが楽しかったです。というのも、高校1年の終わりから怪我が続いていて、そこから引退まで誰かと練習することがなかったからです。人付き合いはあまり得意ではない方なので、本当に練習するだけだったような気がします。当時は茨城から通っていたので、部活行ってすぐ帰るみたいな。ただ、ちばりくには心優しい人が多いので、時間が経つにつれてなんとか受け止めました。

しかし、そこから人間関係で上手くいなくなり部活に行かなかった時期があります。そして、部活に行かない代わりに大学外で自主練していたら膝蓋骨が分裂しました。歩くのも激痛でした。そんなこんなでいろんなことが積み重なり、その時は本当に辞めようか考えていました。他の部活に所属している体育科の同期の試合を応援しに行くと、他のスポーツが楽しそうだな〜って魅力的にみえて、なんで俺はいままでこんな泥臭いスポーツ選んでやってきたんだろうと陸上競技というスポーツ自体嫌いになった時期もありました。ただ、当時主将だった智治さんや副将だった池村さんはじめ、様々な人に声をかけていただき、どうせ入ったし続けてみるかと辞めるまでには至らなかったです。お世話掛けました、ありがとうございました。しかし、怪我の影響もありモチベーションは非常に低かったです。

そんななか、次期副将の話が入ってきました。次期副将ということは次期主将になるということもあり2年間腹を括らなくてはなりません。もちろんはじめは引き受ける気になれなかったです。モチベーションのこともありますし、そもそも人前で話したり、リーダーシップを発揮して集団を引っ張っていくような立ち位置が苦手だったからです。しかし、副将、主将になった際、当時辛い経験をしていたからこそ、またよし悪しに関わらずこれまでの自分の経験をもとにちばりくの誰かを支えることができるのではないかと考えるようになりました。また、過去を振り返ると、自分はいままで小中高と何か責任のある立場、役職からずっと逃げてきました。小規模なことと言えば、何かグループで発表する時の発表役とか。本当に人前とか無理だったんで。でもそのまま逃げっぱなしでいいのかなー、しかも先生になる立場の人間がそんなんでいいのかなーとも考えるようになりました。そして何より、智治さんや池村さんが何人もいる同期のなかお声をかけていただいたので、色々お世話になった分やってみようと思えました。おそらくこれが20年弱生きてきて自分にとって一番でかい

挑戦だったと思います。

実際役職に就いてみて、副将、特に2年の時は精神的にめちゃめちゃ辛かったです。上級生がうじゃうじゃいるなかでも必要に応じてチームを引っ張らないといけないのは正直しんどかったです。当時主将だった池村さんが練習を欠席される際は練習開始のミーティングを任せられますが、そのミーティングの前は必ずトイレにこもってました。(笑)あがりまくって言葉は囁むわ詰まるわ伝える内容は忘れるわ、あんな簡単なミーティングさえ自分にとっては大仕事でした。また、主将になってからも対抗戦やミーティング、幹部会議などにおいて、自分の手際の悪さや、主将という立場であるのにも関わらずどこか自信のない言動を身に染みて感じ、日々マイナスな面を反省するばかりでした。競技面でも怪我が多く、結果でチームを引っ張れないもどかしさがありました。

しかし、そんな日々のなかで、自分がマイナスなことばかり目を向けていることに気づき、何故自分はそうになっているのかと考えるようになりました。その結果、去年の反省文でも似たようなことを書いたような気がします。無意識的に自分のなかにある理想のキャプテン像と自分を照らし合わせてるからだと思います。理想と照らし合わせているからこそ、理想から外れたら悪いみたいになっていたんだな、みたいな。そこからは、ちばりくのキャプテンとして自分をいかせるのはどこだろう、今のチームをいい方向にもっていくにはどうしたいだろうと、これまでマイナス思考気味だったのがプラス思考、未来志向型に変わり、やっとそこで自分の主将になった動機と一致した気がします。また、自分だけでチームを動かすのではなく、周りとの協力するというのを意識しました。自分ひとりでは考える幅も行動範囲も限られるので。ただ、対抗戦の時期は自分でやりすぎたかな、次期主将の古谷や女将の早筈、各幹部や学年に頼った方が責任や立場、チームを意識させる点でよかったかなと反省してます。そんな感じで考え方が変わってから関東インカレまでは、特にマイナスに考え込むことなく気楽に自由にやらせてもらったと思います。自分が主将をやったことでチームや各個人に何を残せたかわかりませんが、とりあえず陸上やちばりくのことを好きでいてくれたらそれでいいです。また自分にとってもこの先にいきる経験をさせていただきました。みんなに支えられての二年間でした、ありがとうございました。

主将の任期が終わってから27大までは教採関係でお休みする機会も多かったので競技をがっつりやるってことはなかったですが、続けていく中でちばりくの仲間がベストを出したり活躍しているところをみれて嬉しかったです。引退した立場から4年間を振り返ると、競技としては自分の納得いくカタチで終わらすことはできませんでしたし、正直楽しいよりも辛い時期の方が多かったですが、そこから逃げずに続けたからこそ人間的な面で成長させていただいたし、良くも悪くもいろんな体験、いろんな人と会うこともできたと思っています。小宮山先生が毎度おっしゃっている4年間で身につく力というのを一概に言葉にするのは難しいですが、きっと自分にも身についたのかなと勝手に思っています。

もっと書こうかなって思ったけどそろそろ2ページ目が終わろうとしているのでこらへんで失礼させていただきます。

4年間ちばりくで過ごせて本当に良かったと思っています。ありがとうございました。

2019年 ちばりく年間反省文

フィールドブロック B4 吉村彩加

みなさんお久しぶりです。“年間”反省文ということなので早速2019年を振り返ってみましょう。

～7月 就活のため休部
8～9月 茨大戦、関甲信、27大戦 出場
10月 諸事情により練習できない
11月 引退試合（の予定だったけど…あれ？）

と、わずか4行でまとめられちゃう1年でした。東大記録会で7種出ます！と宣言した勢いはどこへやらといった感じで、いつの間にかシーズンオフ！引退！陸上人生終了！となってしまったのがかなり心残りです。ですので、この先は私の“陸上人生の記し”の意味を込めて、勝手ではありますが書いていきたいと思います。

それぞれのタームにて私が感じていたこと・印象的だったことです。

◆小中学校

タータンと芝で遊ぶの楽しい！ドリルしたり跳ぶの楽しい！¹⁾ 部員不真面目すぎただけど冬季錬の鬼ごっこ楽しい！混成楽しい！

◆高校

走りまくった。ジャージが正装²⁾。+ α の力は周りの人の力³⁾。「辛いときこそ笑顔」⁴⁾
混成楽しい！

◆大学

セルフマネジメント難しすぎる。混成(主に応援が)楽しい！「人として強くなる」⁵⁾

1) 小学校では週1のお遊びクラブでHJを専門にするも、卒業間近の山梨で風速-5の中ハードル跳んだ事が私の混成人生の始まり。2) 私服高にも関わらず365日ジャージ生活を送った。3) 試合でこの力が出るのは、自分に自信があるときか周りの士気が高くて一体化しているとき。4) 継で自分達の走力から考えられないくらいのタイムを出して普段あまり褒めない顧問を絶句させたのが思い出。4) 1年の時に3年の先輩に言われた言葉。この言葉で冬季錬や混成を乗り越えてきた。ちばりくはいつも笑顔の人が多くてその環境がとても好きだった。5) お馴染みの言葉。これを聞いて、大学陸上は結果がすべてじゃないんだと思う。

基本的に、私は「楽しい！」を行動基準にしてやってきました。ただ、楽で感情が高揚する楽しいだけではなく、辛くても耐えて後に味わえる楽しいも然りです。皆さんだって同じ

はずです。そうでなきゃ陸上なんてやってないでしょう。高校までは周りの人の大きな支えがあってこの感情を最大限に楽しんでいましたが、大学ではそういきませんでした。しょうもない怪我ばかりで思うように練習できない日々でしたが、それを克服できるようなセルフマネジメント意識は生まれませんでした。だけど大好きなちばりくに関わっていたという一心で福主務を務めさせて頂いたり、混成やりたい！と言ってくれた子のサポートをさせてもらったり、部全体に貢献できたとは言えませんが、微力ながら誰かの力になっていたのなら良いなと思います。

陸上を引退したことは、この先の人生にぼっかり穴が開いてしまうような気分ですが、また他の「楽しい」を探し続けて過ごしていきたいとおもいます。就職先もこれを会社選びの軸において就いたので、この直観が間違っていないと良いな。

皆さんにも、陸上を経験して得た何かしらの軸や価値観があると思います。陸上するにも何にしても、それを大切にしたいです。あまり大きなことは言えないけどきっと良いことがあるはず。

こんな所で、私の自己満記は終わりにしたいと思います。陸上やって良かったな。たくさん楽しい思い出ができた。たくさんの人に出会えて良かったな。

ありきたりだけど、この言葉で締めたいと思います。

ありがとうございました。